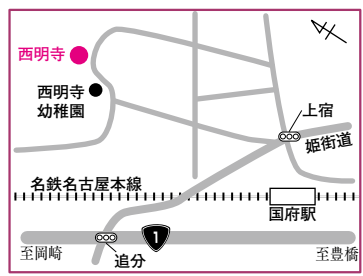




みつけた!



日本医学に貢献したドイツ人医師と妻の物語



八幡町の西明寺には、ドイツ人医師ベルツ博士の供養塔があるのをご存知でしょうか。ベルツ博士は、明治9（1876）年来日し、東京大学医学部の前身である東京医学校で26年間病理学、内科学などを教え、日本医学の発展に貢献をしました。日本滞在中に、アルカリ性化粧水の元祖ともいわれる「ベルツ水」を発明し、その普及に努めたことでも知られます。

また、博士の妻である花さんは東京の生まれですが、父親の実家が御油宿で旅籠を営んでいたことから豊川市にゆかりがあります。花さんは任期を終えたベルツ博士とともにドイツへ渡り、博士の死後大正11(1922)年に帰国しました。そして、昭和5(1930)年に父親の実家の菩提寺である西明寺に、ベルツ博士の供養塔を建てました。

その後、昭和44（1969）年に、俳人・水原秋桜子がベルツ博士の業績をたたえて詠んだ句碑が供養塔の傍らに建てられ、これを記念して博士の孫娘により1本のボダイジュも植えられました。このボダイジュは、今も夏になると涼しげな木陰を訪れた人たちに提供しています。

